

ベトナム「『こけないからだ体操』を通じた介護予防事業支援」 2022年4月～2025年4月



成果報告会で体操を披露する
ハノイ市ロンビエン区ボデ町リーダーの皆さん

背景/課題

アジア諸国において最も速い速度で高齢化が進むと予測されているベトナムでは、家族や親戚が高齢者の世話をする「互助」の風習が残っているが、経済成長による都市部への人口集中により、その風習は薄れつつある。2017年から2021年には、ハノイ市で「高齢化対策としての介護予防事業支援」を実施し、ベトナム保健省へ強いインパクトを残した。

目的

- 「こけないからだ体操」を指導できるリーダーを育成し、コミュニティの「互助」「共助」を活性化する。
- ベトナムが取り組もうとしている「自立支援型デイサービス事業」へのアドバイスや指導をする。
- 高齢者介護予防に関わる政府の人材を増やす。

活動内容

- 本邦研修を通じて、保健省人口家族計画総局(GOPFP)と各保健支局に対し、介護予防事業を推進する政府機関としての役割や日本が取り組む地域包括ケアについての知識を提供する。
- 各地域に専門家を派遣して高齢者に直接「こけないからだ体操」の指導をし、体操指導ができるリーダーを育成する。現地で定期的にセミナーや成果発表会を行う。
- 専門家らによる現地での体操指導に加え、栄養改善、口腔ケアなど総合的な指導を行う。

成果

- 高齢者保健福祉分野の幹部の意識が高まり、参加促進、今後の方向性の検討、予算確保等で自発的な動きがみられるようになった。
- 体操リーダーはセミナーや成果発表において、他地域の取り組みや成果を見ることで、良い意味での競争心が芽生えている。工夫点等を学び、意見を出し合うなど意欲が向上しており、目指していた「住民主導」の活動に変化している。